

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

～オール四国の体制の整備～

課題番号：21HB1007

【分担研究2】四国の高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催および実態調査

研究分担者：高田 清式（愛媛大学医学部附属病院 教授）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によって HIV 診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。令和3年度は、愛媛県では高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催を県（健康増進課）の協力のもと県内の高齢者施設から現場の福祉・介護担当者に募集のもと参加してもらい、HIV 感染症等に関する研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染のこともあり中止した。そのため、（講演できない面を補足する）講演すべき内容を判りやすく冊子として作製し各高齢者施設に配布した。特に高齢の HIV 感染者が多い実情や今後介護の面で問題になると考えられる HIV 関連認知機能障害（HAND）についても啓蒙した。地方での HIV 診療のモデルとして体制整備・充実に努めつつあるが、都会からの帰郷なども要因である高齢の HIV 感染者が年々増加傾向にあるため、介護施設での啓蒙は継続して必要と考える。

**研究分担者**

末盛浩一郎・愛媛大学医学部・准教授

武内世生・高知大学医学部・准教授

窪田良次・香川大学医学部・教授

尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局次長

井門敬子・愛媛大学医学部附属病院・副薬剤部長

若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師

指定され、累計 210 名以上の患者を治療している。四国地区は近年 HIV・エイズ患者の増加が著しく、当県もエイズ拠点病院に指定されている病院が 17 施設もあるものの殆どが診療未経験であり、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は、高齢化率が各県 31.5～34.8%であり、都市に比べ高齢者の HIV・エイズ患者が多く、HIV 感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で生活困難な長期療養

**A. 研究目的**

ブロック拠点病院が近辺にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に

患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行っているが HIV に対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。これらの実情のもと、数多くの医療スタッフによるチーム医療が必要な領域であることを踏まえて、当院では数年前より HIV 診療チームを立ち上げ活動しつつある。こうして愛媛県各地域の各病院・施設と連携を行うように努めているものの、対応すべき HIV 感染症患者は多くかつ経済・人材面も満たされておらず、連携しうる病院・施設への啓蒙や人材の育成も患者数の増加からは極めて不十分な状況である。このような背景のもと、中核拠点病院の立場から、県内の病院・施設との連携整備、さらには県・市の保健行政との連携も踏まえ、HIV 感染者・エイズ患者に対する診療体制を整備し充実を図りたいと考えている。ブロック拠点病院の存在しない四国地区全体の HIV/エイズ診療体制の充実に努めることを実行していきたい。

さらにこれらの研究成果は、エイズ学会をはじめ多くの機会に公表・報告していくことで、他府県などにモデル地区としての立場で発信し、四国のみならず全国の地域の HIV 診療の充実に努めたい。

## B. 研究方法

各県の行政の協力のもと高齢者施設から現場の福祉・介護担当者に参加してもらい、HIV 感染症等に関する研修会を開催する。特に高齢の HIV 感染者が多い実情や今後介護の面で問題になると考えられる HIV 関連認知機能障害 (HAND)、最新の知見

(治療が良好なら感染しない U=U) についても啓蒙する。知識啓蒙とともに参加者各自に HIV 感染者を支援することの自覚を促すことを目的に、研修会の終了時に HIV 感染者の福祉・介護についてアンケートを行う (参加者 100 名前後の予定)。

(倫理面への配慮)

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

## C. 研究結果

県内の高齢者施設から現場の介護・福祉担当者に参加してもらい、HIV 感染症等に関する研修会を令和 4 年 1 月に予定したが、新型コロナウイルス蔓延にて開催できず、令和 3 年度としての試みとして、(講演できない面を補足する) 講演すべき内容を判りやすく冊子として作製し各高齢者施設に配布した (図に資料の 1 部を提示)。

**高齢化しつつある県内のエイズ患者の現状と地域でのケア**  
～感染症全般の対応も含めて～

**標準予防策と感染経路予防策**

**ウイルスの生存(感染力)期間**

ウイルス	凹凸表面	平滑表面
RS	1時間	7時間
パラインフルエンザ	4時間	10時間
ライノウイルス	1時間	3時間
インフルエンザ	8～12時間	24～48時間
HIV	1時間(消毒にて数分以内)	
新型コロナウイルス	3日間程度(エアゾル3時間)	
B型肝炎ウイルス	7日間以上	
ノロウイルス	21～28日間	

**HIV/AIDS 患者数**

**2020年現在の世界推計**

- HIV感染者数 3760万人 (2020年～4500万人)
- 年間新規HIV感染 130万人 (110万～210万人)
- 年間エイズ関連死者数 69万人 (48万～100万人)
- 累計770万人 (540万～1億1000万人)
- 治療の割合は2020年まで7%

**日本国内(2021年12月28日現在)**

- HIV感染者累計数 32,467人 (HIV 23,184, AIDS 10,283)
- 2021年12月現在新規感染 1,023人 (HIV 712, AIDS 309)
- 愛媛県内HIV感染者は2021年度末現在194名 (HIV 81, AIDS 113)

**CASE2 最近の例**

口腔カンジダ、食道カンジダ、肺化管(Kaposi肉腫)

**HIV感染者は今後**

- HIV感染者は、増加するのみ…痛痒も増加
- 外来通院患者も増加するのみ
- 外来患者が発病して入院することはまれ
- 治療期間は延長し続ける…完治はまだ困難
- HIVと関係のない疾患になるHIV感染者が増加し、その一部が入院(通院患者の数%前後?)
- 高齢者のHIV感染者も増加する
- ⇒ 介助・介護・療養を必要とする 回復の大きな課題

図 冊子内容 (一部抜粋) 介護に必要な HIV の実践的な知識を自学用に多く含む。

#### D. 考察

全国的に少子高齢化社会になりつつあり、高齢化が一步進んでいる愛媛県および四国は、今後の HIV 感染者の高齢化と介護・福祉対策を考える上で代表的なモデル地区と考える。

四国地区にはブロック拠点病院はないものの、当院では令和 3 年度末現在累計 210 名以上の HIV 診療経験があり（県内の大半の HIV 診療を担当）、愛媛県での中核拠点病院の立場にある。また、四国の他県からも患者は通院している現況である。HIV 感染者・エイズ患者が全国的に増加する傾向にあるが、四国も例外ではなく、愛媛県においても新たに毎年 10 名以上の新規感染者・患者が報告されており、また年配の帰郷者も少なからずあり、そのため高齢の HIV 感染者が多く見られ HIV 診療の充実には早急に迫りつつある課題であると考えられる。さらに愛媛県をはじめとする地方においては、高齢の HIV/エイズ患者が比較的多く、愛媛県において令和 3 年末現在 50 歳以上の 8 割は発見時にエイズ患者であるという現実があり、各拠点病院と長期療養患者を受け入れ得る介護・福祉施設間の連携は緊喫の課題である。

令和 3 年度は、愛媛県では高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催を県（健康増進課）の協力のもと県内の高齢者施設から現場の福祉・介護担当者に募集のもと参加してもらい、HIV 感染症等に関する研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染のこともあり中止した。そのため、（講演できない面を補足する）講演すべき内容を判りやすく冊子として作製し各高齢者施設に配布した。特に

高齢の HIV 感染者が多い実情や今後介護の面で問題になると考えられる HIV 関連認知機能障害（HAND）についても啓蒙した。

今年度の注目すべき 1 つとして、厚生労働省の健康局結核感染症課から直接アドバイスをいただき、受け入れに難渋する症例などを今後蓄積し検討していくことも踏まえ、いわゆる長期療養体制構築事業として、①長期療養体制会議（中核拠点病院・拠点病院・介護施設・介護員・本人・家族などの現場の会議）と②政策を行うエイズ対策推進会議（行政主体の開催で、拠点病院医療従事者と行政職員、介護支援専門員などの政策会議）の 2 つの会議を立ち上げ円滑な受け入れのシステムを整備しつつある。このシステムの整備が全国的に HIV 診療体制のモデルとして、発信できればさらに意義深いと考える。

HIV 感染者の高齢化にあたり、HIV 診療および福祉連携のあり方についてさらに充実に努め、高齢化率の高い愛媛県のような四国地方において、その介護福祉連携のモデル地域として今後も研究・報告を当地区から全国に発信していきたいと考える。

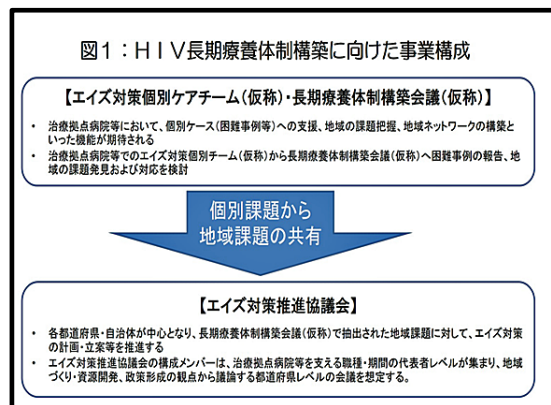


図 県内拠点病院・介護施設と行政とを含めた、長期療養体制会議とエイズ対策推進会議の連携（厚労省のアドバイスをもとに

検討中)

## E. 結論

ブロック拠点病院がない四国地域において、HIV 診療体制整備のために高齢介護施設の介護・福祉担当者への講演・資料配布、さらに積極的に出張講義、ポケット版小冊子の配布などを行い、具体的な問題を整理し知識・経験を共有できた。高齢化社会を迎え介護・療養が必要な HIV 感染・エイズの増加に対応するために、HIV 診療体制の整備は、特に地方においては拠点病院間のみならず介護・福祉施設との福祉連携の充実が不可欠であり研究を継続し地方のモデルという立場からもさらに向上に努めたい。

## F. 健康危険情報

該当なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1. 末盛浩一郎、田中景子、石川明子、小野恵子、芝田佳香、武田玲子、若松綾、宮崎雅美、中尾綾、乗松真大、木村博史、山岡多恵、井門敬子、竹中克斗、高田清式。愛媛県の各医療機関における HIV/AIDS 研修会後のアンケート調査を介した比較検討。日本エイズ学会誌,23(1):26-32, 2021
2. 高田清式。臨床検査を使いこなす。EB ウイルス、サイトメガロウイルス。日本医師会雑誌生涯教育シリーズ 150 巻特別号：290-293, 2021
3. 高田清式。サイトメガロウイルス核酸定量について。モダンメディア 67 巻 7 号：14-17, 2021
4. 中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田

拓洋、朝霧正、四國友理、北村優衣、高田清式、武内世生。医療機関における HIV 陽性者受け入れ時の問題点と解決への取り組み。日本エイズ学会誌（投稿中）

### 2. 学会発表

1. 中尾綾、レイシー清美、末盛浩一郎、河邊憲太郎、山之内純、竹中克斗、高田清式。HIV 感染者の気分状態と関連因子の検討。日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催。
2. 菊池正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、程野哲朗、佐藤かおり、高田清式、杉浦互、吉村和久他。国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向。日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催。
3. 西田拓洋、中尾綾、臼井麻子、吉川由香、海面敬、赤松祐美、谷英俊、池谷千恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤穰、窪田良次、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、河邊憲太郎、山之内純、高田清式。中国四国地方における HIV 関連神経認知。日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催。
4. 井門敬子、乗松真大、木村博史、中川進平、川上幸伸、若松綾、本園薫、中尾綾、末盛浩一郎、飛鷹範明、田中守、高田清式。HIV 在宅介護研修における薬剤師の活動。日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催。
5. 中川進平、井門敬子、乗松真大、木村博史、川上幸伸、末盛浩一郎、中尾綾、若松綾、高田清式、飛鷹範明、田中守。介護ケアセンター職員向けに作成した抗 HIV 薬に関する冊子の評価（第 2 報）。日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催。
6. 若松綾、本園薫、越智俊元、木原久

文、末盛浩一郎、井門敬子、小野恵子、中尾綾、山岡多恵、竹中克斗、高田清式。イスラム教徒の妊婦を多職種で支援した一例。日本エイズ学会、2021年、WEB開催。

7. 武内世生。臨床から具体的なワクチン例および接種状況、SCB シンポジウム3、HIV感染者のワクチン接種。日本エイズ学会、2021年、WEB開催。

#### H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし